

**(仮称) 西東京市総合戦略 (中間のまとめ)**

# 目次

I	はじめに.....	1
	<総合戦略について>.....	1
	<総合戦略の位置づけ>.....	2
	<計画期間>.....	2
II	データから見た特徴と課題認識.....	3
	1. 特徴.....	3
	2. 人口減少時代における課題認識.....	6
III	戦略のめざすところ.....	8
	1. 戦略の基軸.....	8
	2. 推進にあたっての方向性.....	8
	<基本目標体系>.....	9
IV	基本目標.....	10
V	戦略推進のための共通の視点.....	14

# I はじめに

## <総合戦略について>

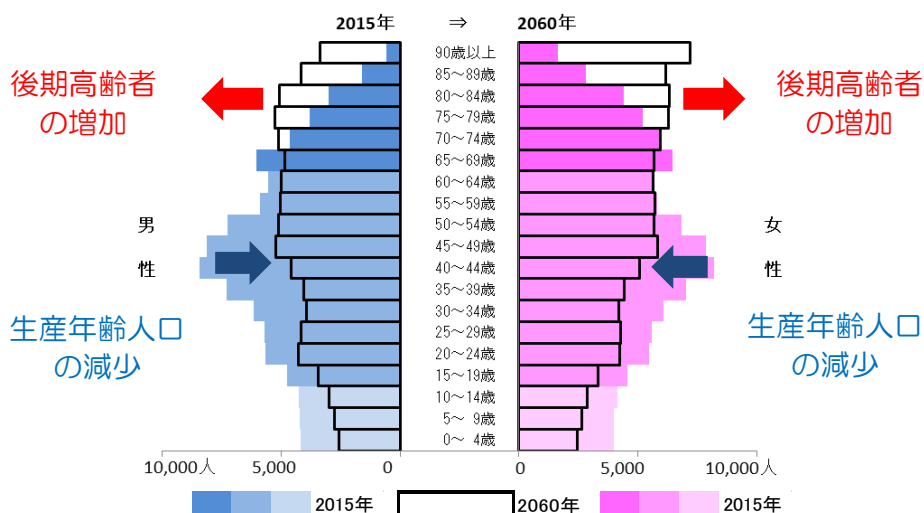
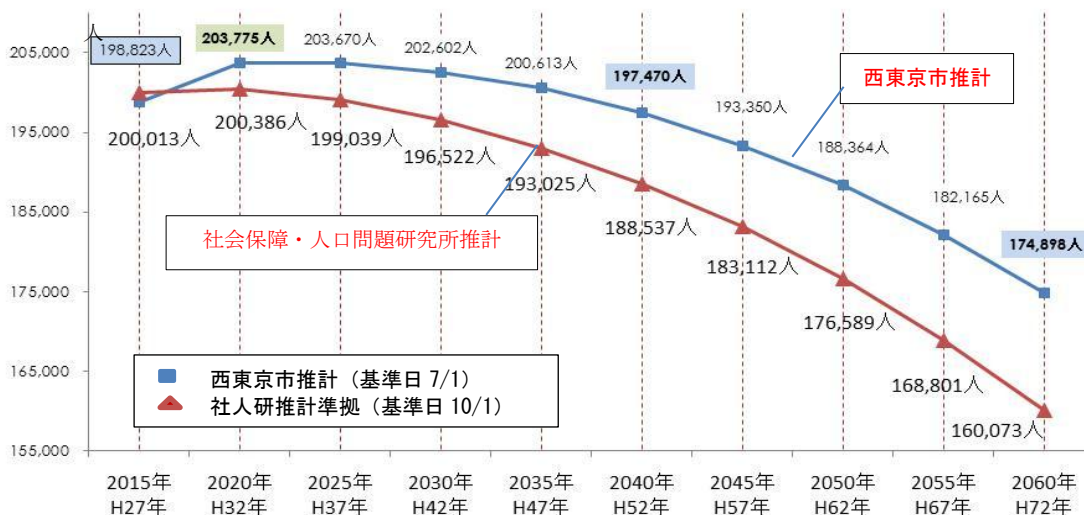
西東京市総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国が示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方をもとに、西東京市の実情に応じて策定するものです。

また、平成 72（2060）年を推計期間として並行して策定する「（仮称）西東京市人口ビジョン」における、本市の人口の現状と将来展望等を踏まえて、今後 5 か年（2015～2019 年）の基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策、評価指標などを設定します。

本市の人口の状況を見ると、今後も増加が予測されていますが、平成 32（2020）年の約 20 万 4 千人をピークとして緩やかに減少を始め、25 年後の平成 52（2040）年には現在人口と近似値である約 19 万 7 千人に、45 年後の平成 72（2060）年には約 17 万 5 千人と予測されています。また、人口構造は着実に変化し、平成 72（2060）年の 75 歳以上（後期高齢者）の人口は、平成 27（2015）年と比べると 2 倍近くになります。

### 本市の人口推移（将来推計）と人口ピラミッドの変化

（西東京市人口ビジョン（平成 27（2015）年 11 月推計）



## <総合戦略の位置づけ>

『西東京市第2次基本構想・基本計画』は、平成35（2023）年度を目標年次（計画期間）として、西東京市のめざすべき将来像を描き、まちづくりを一步前に進めるための長期計画であり、国が策定した長期ビジョン及び総合戦略と同様の方向となっています。

そのため、本市の総合戦略は、上位計画となる第2次総合計画で定めた6つのまちづくりの方向のうち、国の示す4つの基本目標と対応する、「創造性の育つまちづくり」、「笑顔で暮らすまちづくり」、「安全で快適に暮らすまちづくり」、「活力と魅力あるまちづくり」の4つの方向を、計画的かつ効果的に推進するための「戦略プラン（アクションプラン）」と位置付けるとともに、「西東京市人口ビジョン」で示す、平成72（2060）年を見据えた将来のまちづくりのための戦略としてとりまとめるものです。



### ◇国の総合戦略と西東京市第2次総合計画および本市の総合戦略の関係性

国の総合戦略 基本目標	西東京市第2次総合計画 (まちづくりの方向)	西東京市総合戦略 基本目標
①地方における安定した雇用を創出する	活力と魅力あるまちづくり	○地域に根ざした産業が育ち、まちの活力を伸ばす
②地方への新しい人の流れをつくる	創造性の育つまちづくり	○次の世代が将来を描ける
③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	笑顔で暮らすまちづくり 安全で快適に暮らすまちづくり 活力と魅力あるまちづくり	○健康・安心・いきいきと暮らす ○まちを楽しみ、まちの良さを高める

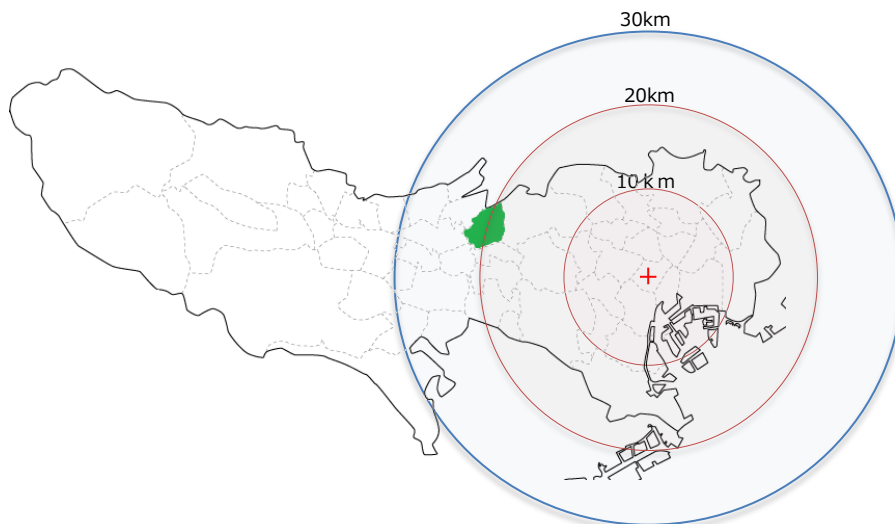
## <計画期間>

総合戦略の計画期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

## II データから見た特徴と課題認識

総合戦略策定にあたり、本市の地域特性を分析するため、都心から 20 km 圏の同心円上の都市（23 区と隣接する 5 市〔武蔵野市・三鷹市・調布市・狛江市・西東京市〕、以下「区部隣接 5 市」という。）と、通勤・通学などに利用する鉄道沿線の人の流れおよび転入・転出などの傾向に着目した場合の都市（多摩北部都市広域行政圏を構成する 5 市〔小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市〕、以下「北多摩 5 市」という。）を基本として比較しています。

また、本市が実施した市民意識調査や転入・転出における意識調査、近隣市在住者・若者への Web アンケートなどの各種調査結果から西東京市の主な特徴と課題についてまとめています。



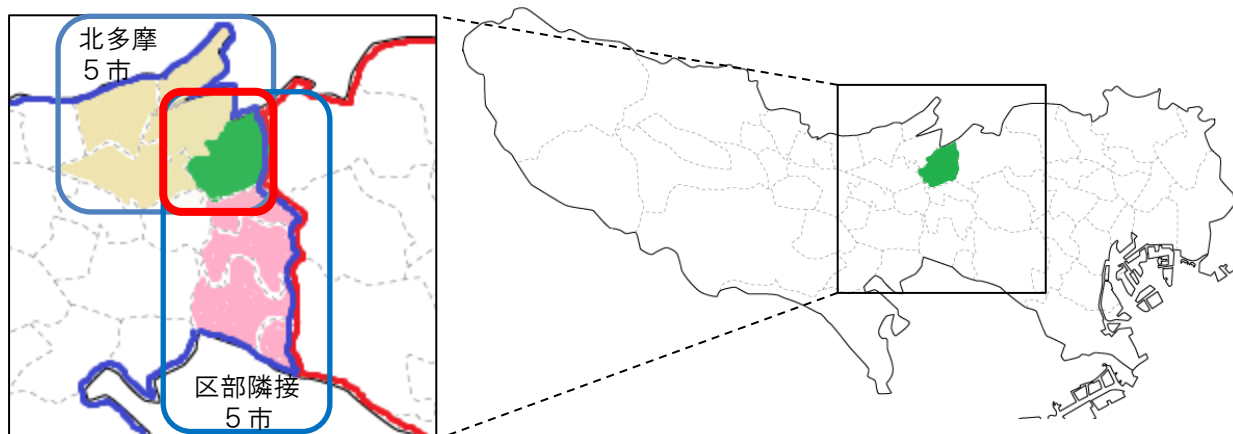
### 1. 特徴

#### （1）都心部へのアクセスの利便性と郊外の居心地の良さを享受できるまち

区部隣接 5 市は、都心から 20 km 圏で区部に隣接し、副都心エリアまでの移動時間が 15 分～20 分程度となっており、日常生活における就業や買い物などに便利で、移動のほかに、商業面や教育・学習環境の面で同じような特性を有しています。

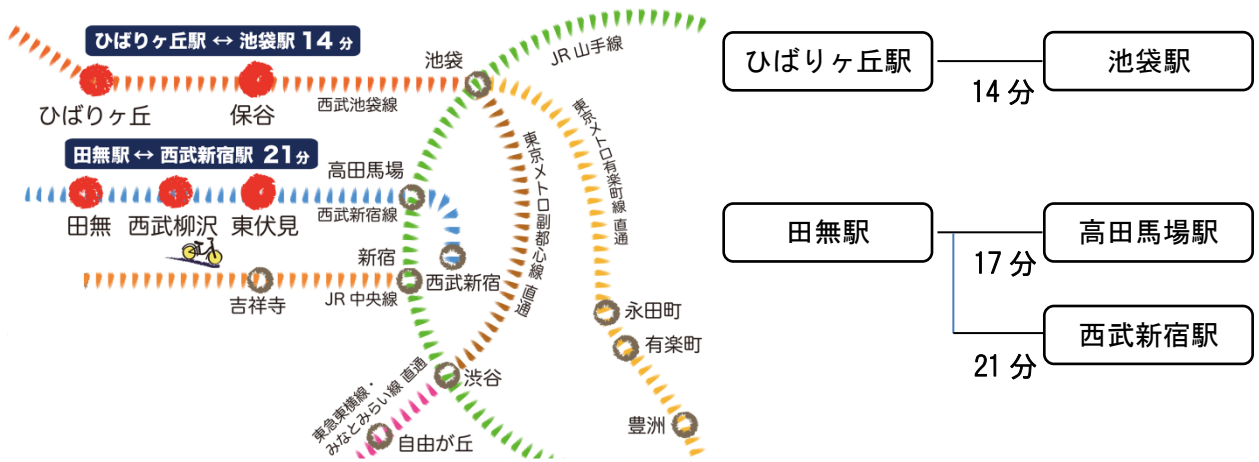
一方で、北多摩 5 市は、みどりや自然といった面で同じような特性を有しており、安らぎを感じることのできる良好な空間を備えています。

西東京市は、区部隣接 5 市と北多摩 5 市の両方の特性（良さ）を享受できるまちです。



## (2) コンパクトでアクセス性の良いまち

本市は、面積 15.75 平方キロメートルで地形はほぼ平坦、面積は小さいながらも鉄道が 2 路線 5 駅あり、市域の約 8 割の地域は駅まで徒歩 20 分圏内となっています。また、鉄道だけではなく主要幹線道路が発達し、バス便の充実や近隣へのアクセスに恵まれており、「行動や活動がしやすいまち」としてのポテンシャルを有しています。



## (3) 人口規模・人口構成

人口規模は約 20 万人で将来の人口減少率も比較的緩やかに推移することが予測されています。人口密度では多摩地区で武蔵野市に次いで 2 位となっています。持ち家比率は 61%と区部隣接 5 市の中では最も高く、ファミリー世帯が多く居住しています。

人口規模 約 20 万人	人口構造 多世代が居住	人口密度 2 位 多摩 26 市	世帯 ファミリー多い
持ち家比率 61%	公示地価平均額 (住宅地) 8 位 多摩 26 市	1 住宅当たり居住 室数 3.8 室	1 住宅当たり延べ 面積 71.89 m <sup>2</sup>

## (4) 産業集積と産業構造

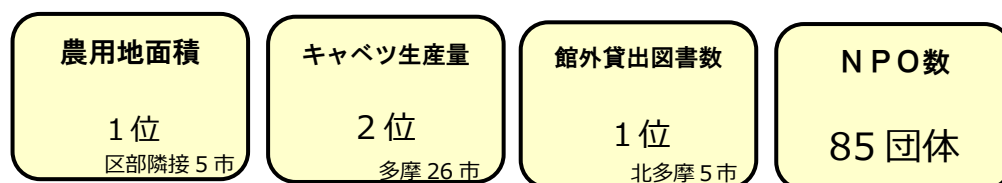
本市は区部隣接 5 市と同様に一定の産業集積もありますが、働いている市民の約半数は 23 区へ通勤しています。従事している産業では、第 3 次産業の割合が高く、23 区と同程度となっています。

事業所数 1 位 北多摩 5 市	年間商品販売額 2 位 北多摩 5 市	働いている市民 半数は 23 区へ	第 3 次産業割合 23 区並み
------------------------	---------------------------	----------------------	---------------------

## (5) 農と文化の息づくまち

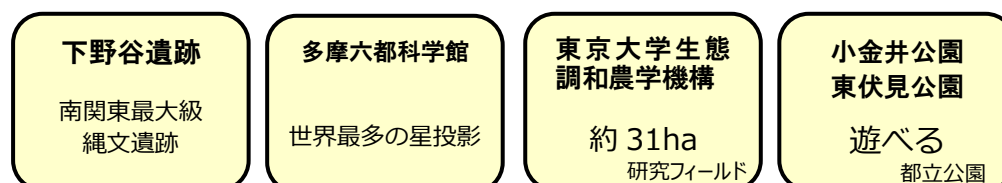
市内には都市農業の魅力が多く潜在しており、農地がある街並みは安らぎをもたらすとともに、身近にある直売所は安心・安全な食のめぐみの提供元として、重要な地域資源となっています。一方で、教育・学習環境面の学校数・児童生徒数、図書館蔵書数、社会教育事業数などは区部隣接 5 市と同程度となっており、館外貸出図書数や社会教育事業数などは、北多摩 5 市で上位となっています。

また、市内には、さまざまな分野で活動する団体が多数あり、学習活動や地域活動が活発に展開されています。



## (6) 魅力的な地域資源やみどり・フィールド

市内には南関東最大級の縄文時代の集落「下野谷遺跡」や世界最多の星が投影できるプラネタリウムを持つ「多摩六都科学館」、東京大学生態調和農学機構などの研究フィールドがあります。



## 2. 人口減少時代における課題認識

### (1) 人口は増加した後、緩やかに減少に転じる

本市の人口は増加していますが、将来人口は平成 32（2020）年をピークとして緩やかに減少を始める予測となっています。人口減少時代を迎えるにあたり、今後の各施策における事業展開においては、中長期的な視点に立ってその影響を捉えた上で対応していく必要があります。

### (2) 若い世代の結婚・出産・子育てにおけるギャップと転出超過

**(出生率)** 平成 23（2011）年度以降の北多摩 5 市では、小平市、清瀬市、東久留米市の合計特殊出生率が上昇する中で、本市は、おおむね横ばいとなっています。要因の 1 つとしては、本市の 25～34 歳の女性の未婚率が全国水準よりも高いことや、子ども 2 人以上世帯の割合が北多摩 5 市の中では低いことがあげられます。一方で、本市の 18～39 歳女性の結婚意向や希望出生率は全国水準より高くなっています。

**(若い世代の転出超過)** 本市の 25～39 歳の若年層については、都心（新宿区、世田谷区等）や北多摩 5 市（小平市、東久留米市等）への転出超過の傾向となっています。一方で、未婚者を対象とした市民意識調査結果では、「結婚して西東京市に住みたい」と考えている 18 歳～29 歳の割合は 26.0%ですが、「子どもができたら西東京市に住みたい」と考えている 18 歳～29 歳の割合は 30.9%で、更に 30 歳～39 歳の割合では 50.7%と半数を超えています。

### (3) 後期高齢者の増大と生活環境への対応

本市の高齢化率は、現在の 23%から平成 72（2060）年には 37%となる予測で、特に後期高齢者は現在の約 2 倍に達すると予測されます。市民意識調査結果における「今後の生活にとっての重要度」では、他の世代に比べ 60 歳以上の高齢者は、「地元の商店街」のポイントが高くなっています。また、一方で「買い物の利便性」については、全世代においてポイントが高くなっています。市内小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額が減少傾向にあるなかで、買い物の利便性の向上策が求められています。

### (4) 市内産業の活性化

本市の事業所数・従業者数は、北多摩 5 市では最も多く、区部隣接 5 市と肩を並べる水準にあるなど、産業の集積地としての一面もあわせ持っています。しかし、商店の廃業等による空き店舗の増加や大規模工場の撤退、縮小がみられます。また、農家数や農地面積も年々減少しており、市内産業を取り巻く状況は厳しくなっています。

そのため、地域に根差した産業の振興や起業の促進など、地域の実情に沿った地域産業の活性化が求められています。



## (5) まちのイメージの向上

多摩地域を除く首都圏の住民を対象として、平成 25 年に東京都市長会が実施した調査結果では、本市の認知度は多摩 30 市町村中 23 位となっていますが、本市を除く都民と西武線沿線の埼玉県民を対象として、本年、本市が実施した Web 調査の結果では、東京都や埼玉県内東京都近郊都市における西東京市の認知率は 96.1%となっています。また、「名前だけでなく、まちの特徴まで知っている」と回答した割合は、練馬区を除く 23 区や東京都その他の市町村、埼玉県内東京都近郊都市では低く、この傾向は小平市、東久留米市で同様となっています。

一方で、想起される本市のイメージでは、まちの利便性やみどりにかかわる事項が中心で、「歴史・伝統」、「祭・イベント」に対するイメージは、練馬区・武蔵野市・三鷹市・東久留米市・小平市・所沢市に比べ低くなっています。また、住民のまちへの愛着度が高い武蔵野市、三鷹市などと比較すると、「まちなみや景観、雰囲気が良い」「まちに個性がある」「文化・芸術・音楽を鑑賞できる」などの項目で差があり、本市の魅力として存在する地域資源（ヒト・モノ・コト）の認知が低い状況となっているため、「見のがされている」良さを広く伝える取組が必要となります。

## (6) 財政の硬直化への対応

本市の市税収入額は 5 年連続で増加してきており、平成 26（2014）年度には過去最高となったものの、財政力指数では多摩 26 市中 17 位（平成 27 年度財政力指数 0.888）に留まっており、経常収支比率が高く、新たな市民ニーズ（行政需要）に対応する余力が少ない状態にあります。その中で、公共施設等の更新や維持管理、業務の改善等が大きな課題となっており、行財政改革をこれまで以上に推進させる必要があります。

### Ⅲ 戦略のめざすところ

#### 1. 戦略の基軸

現在の本市は多世代がバランスよく居住していますが、将来においても「住みたいまち」、「住み続けたいまち」として選択されるためには、こころやかなだの「健康」はもとより、地域やまち全体の健康を市民とともに考え、支え合うまち『健康応援都市※』の構築と併せて、今住んでいる市民が自分たちのまちに対して満足すること（満足度の向上）が重要です。

そのために、市の持つ良さ（＝ポテンシャル）をいかしつつ、「健康応援都市」の構築による「まちへの愛着」の向上のための取組を進めることで、まちの価値を高め、さらに市民の満足も向上するという好循環を生み出していきます。

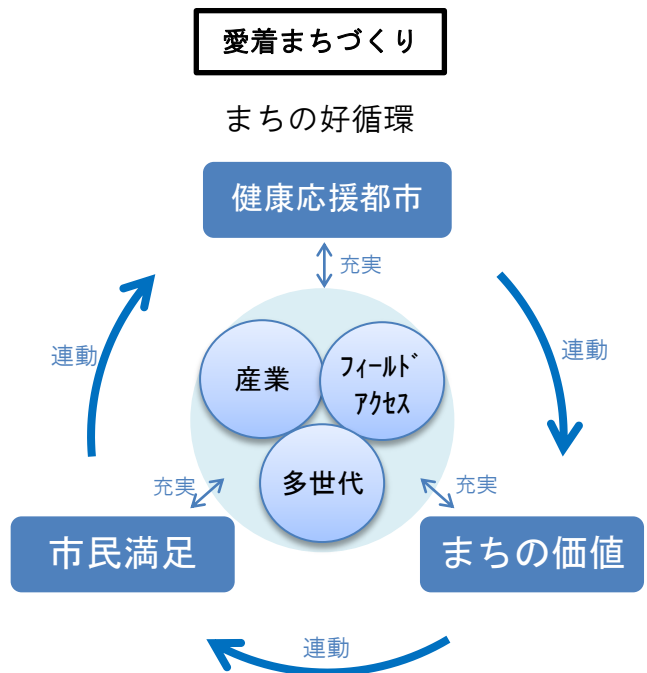
#### 『健康応援都市』の構築



#### 『愛着』まちづくり



『住みたいまち』、『住み続けたいまち』としての価値を高める



※ 西東京市のめざす「健康応援都市」は、WHOの健康都市連合憲章の考え方を踏まえ、人々が互いに助け合い、生活のあらゆる局面で最高の状態（まちそのものが「健康」であること）を達成するため、その実現に向けて、保健医療・社会経済・居住環境などの様々な分野の改善を進めるとともに、地域・住民が互いに支え合う（応援する）まちです。

#### 2. 推進にあたっての方向性

##### ① 多世代の活力をいかすための応援をする

###### （若い世代のライフコースの変化に対応する）

結婚や出産を機としたライフコースの変化によって生じる様々な課題に対応し、次の世代が将来を描けるようになります。

###### （健康、安全・安心、いきいきと活躍できる）

いつまでも健康で、安全・安心に暮らせる環境を整え、高齢期を迎えても、これまでの知識や経験をいかし、活躍できるまちづくりを進めます。

##### ② 産業の活性化により、まちの魅力を高める

まちの魅力や活力源としての産業集積を維持しつつ、若者や女性の新たな発想による起業意欲をいかせるよう、地域に根差した産業の育成を進めます。

##### ③ 地理的優位性（フィールドやアクセスの価値）をいかして、まちの活気を高める

###### （アクセスの良さを活かす）

「外出しやすい・立ち寄りしやすい」といった魅力を「まちの価値」として PR するとともに、行政サービスへのアクセシビリティなどもあわせた「アクセスの良さ」をまち全体のイメージとしていかします。

###### （地域資源を活かす）

本市の魅力として存在する地域資源（ヒト・モノ・コト）をいかし、まちの良さを高めます。

## <基本目標体系>

### ● 1 次の世代が将来を描ける

- 1-1 次の世代の結婚・出産・子育ての応援
- 1-2 女性や子育て世代が輝く環境づくり

### ● 2 健康・安心・いきいきと暮らす

- 2-1 いつまでも健康で元気に暮らせる『健康応援都市』の推進
- 2-2 安全・安心をみんなでサポート
- 2-3 少子高齢化時代のまちづくり

### ● 3 地域に根ざした産業が育ち、まちの活力を伸ばす

- 3-1 「やる気・勇気」魅力ある新産業の育成
- 3-2 「やる気・元気」地域に根ざした産業の振興

### ● 4 まちを楽しみ、まちの良さを高める

- 4-1 いいね！と評価できる魅力づくりと情報発信
- 4-2 ほっ！と安らげるみどりのまちづくり
- 4-3 ぱっ！とどこにでも行けるまちを満喫する

---

## IV 基本目標

---

### 基本目標 1 次の世代が将来を描ける

#### ■ 取組方向

- 若い世代の結婚・出産・子育て期にわたる、『切れ目ない支援』への取組を進める
- 子育て期における女性の就労ニーズへの対応を進める

#### ■ 関連施策・事業

対策内容	
1-1	次の世代の結婚・出産・子育ての応援
	<方向性> ①子育て期の切れ目ない支援体制づくり ②出生率向上のための支援体制づくり ※事業は調整中
1-2	女性や子育て世代が輝く環境づくり
	<方向性> ①子育て中の負担を軽減しながら仕事と生活の調和を図るための支援体制づくり ※事業は調整中

## 基本目標 2 健康・安心・いきいきと暮らす

### ■ 取組方向

- 安心して、いつまでも健康で元気に地域で暮らし、多世代が交流するまちづくりを進める。

### ■ 関連施策・事業

対策内容	
2-1	いつまでも健康で元気に暮らせる『健康応援都市』の推進  <方向性> ①生涯を健康で、心身ともに自立した生活を送ることができる「健康づくり」 ※事業は調整中
2-2	安全・安心をみんなでサポート  <方向性> ①多世代で支え合う環境づくり ②高齢者・障害者などが買い物などに困ることなく暮らせるための環境づくり ③高齢者・障害者などが住み慣れた地域で暮らし、みんなで共生できる環境づくり ※事業は調整中
2-3	少子高齢化時代のまちづくり  <方向性> ①地域の中で安心して暮らすための行政サービス提供の体制づくり ②地域包括システム構築に向けた体制づくり ※事業は調整中

## 基本目標 3 地域に根ざした産業が育ち、まちの活力を伸ばす

### ■ 取組方向

- 都心等へのアクセスの良さや産業集積の高さなどを活かし、産業を活性化させる。

### ■ 関連施策・事業

対策内容	
3-1	<p>「やる気・勇気」魅力ある新産業の育成</p> <p>&lt;方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①新たなチャレンジ（起業・創業）を促すための体制づくり</li><li>②女性の多様な働き方を支援する体制づくり</li><li>③働き盛り世代や知識や経験を保有するリタイア層の新たなチャレンジ（起業・創業）を応援する体制づくり</li></ul> <p>※事業は調整中</p>
3-2	<p>「やる気・元気」地域に根ざした産業の振興</p> <p>&lt;方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①地域に根差した商工業を応援し、まちの活性化へつなげる環境づくり</li><li>②地産地消で農と食を楽しみ、まちの活性化へつなげる環境づくり</li></ul> <p>※事業は調整中</p>

## 基本目標 4 まちを楽しみ、まちの良さを高める

### ■ 取組方向

- 魅力の向上（地域資源の活用）により、将来にわたって「住みたい」「住み続けたい」まちをめざす

### ■ 関連施策・事業

対策内容	
4-1	<p>いいね！と評価できる魅力づくりと情報発信</p> <p>&lt;方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①まちの魅力を発見・発信できる体制づくり</li><li>②市内外から、いいね！と評価されるまちづくり</li><li>③市民の愛着がつくるまちづくり</li></ul> <p>※事業は調整中</p>
4-2	<p>ほっ！と安らげるみどりのまちづくり</p> <p>&lt;方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①身近なみどりを楽しめるまちづくり</li></ul> <p>※事業は調整中</p>
4-3	<p>ぱっ！とどこにでも行けるまちを満喫する</p> <p>&lt;方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①アクセスの良さを価値につなげるまちづくり</li></ul> <p>※事業は調整中</p>

## V 戦略推進のための共通の視点

---

### ①まち全体（行政・市民）で情報を発信

地域資源（歴史・文化、まちなかの自然、景観、農産物や商品等）やちょっとした満足感などを、さまざまなツールを用いて「いいね！」と発信し、皆で共有し、まちの魅力を高めます。

### ②市民との連携、協働

本市には、市民をはじめとして、ボランティア・市民活動団体、NPO、企業、教育機関など、さまざまな団体が活動しています。みんなの力で活力あるまちとなるよう、市民協働の機会を広げます。

### ③健全な自治体経営と連携した行政サービスの提供

将来人口や社会経済情勢の変化を的確に捉えながら、経営の視点に立った行財政運営に取り組むとともに、行政組織の連携強化などにより、地域の実情や市民ニーズに沿った柔軟で効果的な行政サービスの提供を行います。

### ④広域連携

周辺自治体との広域的な連携により、より効率的で効果的な施策の展開を図ります。

### ⑤発想の転換による持続可能なまちづくり

今後の事業展開においては、様々な角度からのデータ分析やこれまでとは異なる視点で事業を実施するなど、画一的な方法や考え方に留まることなく、発想を転換して、新たな価値を創出します。